

# 東京バッハ合唱団 月報

[ 第 556 号 ] 2008 年 10 月

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 Tel : 03-3290-5731 Fax : 03-3290-5732  
E-mail : bachchortokyo@aol.com http : //www2.tky3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.556  
October 2008

5-17-21-101 Funabashi,  
Setagaya-ku, Tokyo

## バッハのラテン語テキストによる作品

大村 恵美子

バッハ当時のドイツ・プロテスタント教会では、ルターの宗教改革の精神から、礼拝のなかでの日常語(ドイツ語)の役割が増してきて、典礼歌までもドイツ語で歌われるようになっていきましたが、カトリックの伝統的な典礼音楽もある程度重んじられていたようです。

フェーリクスによれば、「福音主義教会の典礼歌の中で、その存在が重視されたため存続を保った一連のラテン語歌詞があった。こうしてたとえばライブツィヒでは、バッハの時代に特別な祝祭日の礼拝ではミサ曲の諸部分が、またマリヤにちなむ祝日や三大祝祭日にはマニフィカトが、それぞれラテン語で演奏されたのだった。その上演のために、バッハが主として他の作曲家たちの作品を用いたことは明らかであるが、それでもやはりいくつかの曲を自分の手で制作した」(Werner Felix 『バッハ 生涯と作品』杉山好訳、講談社学術文庫 p.285)。

すなわち、4曲の《ミサ・プレヴィス》(キリエとグロリアの部分だけからなる、小ミサ曲)、ヘ長調(BWV233)、イ長調(BWV234)、ト短調(BWV235)、ト長調(BWV236)と5曲の《サンクトゥス》(BWV237~241)、および《マニフィカト》(二長調BWV243、変ホ長調BWV243a)などです。

来年2009年8月に私たちが第5回ヨーロッパ演奏旅行でフライブルクを訪れるとき、大聖堂の日曜のミサで音楽を担当するようにとの望外なご依頼を受けました。キリエ、グロリア、サンクトゥス、アニウス・デイを、合計20分の範囲で演奏するようにとのことです。この大聖堂にはりっぱな聖歌隊があって、例外的に客演の合唱団が担当を依頼されるようですが、よく事情を知らない私は、バッハを専門にレパートリーとする合唱団として、バッハを選ぶことが許されるのかどうか測りかねましたが、まずは、私

たちがすでに演奏したことのある作品の中から、時間的制約にかなうものとして、次のようなプログラムを考え、申し出ました。

キリエ、グロリア...《ミサ曲ト短調》(BWV235)より  
サンクトゥス...《ミサ曲ト短調》(BWV232)より

アニウス・デイは、時間的に適するものがないので、会衆歌にさせていただく。

幸いこの申し出が承諾されましたので、どのくらいこれらが異例でないのかどうか分かりませんが、バッハ本来のエキューニカルなメッセージが、こんなふうにもゆきわたったものと解し、この日の私たちの合唱に、大きな意義を感じているところです。

### 第103回定期(12月13日)演奏曲目 歌詞と解説

カンタータ第191番《グロリア 高き天なる神に》

»Gloria in excelsis Deo« BWV 191

<歌詞は、下の表をご参照ください>

さて、カンタータ第191番《グロリア 高き天なる神に》は、ラテン語教会音楽として、教会カンタータからはずす分類もあるのですが、新バッハ全集でも、BWV191という分類は存続させていますので、バッハの教会カンタータ中ただ1つのラテン語テキストによる作品として、とりあげることにします。ただし、定期演奏会では、他の3曲と足並みをそろえて、日本語で歌います。

1733年に、後の《口短調ミサ曲》の母胎(第1部)となる「キリエとグロリア」を、バッハはドレスデンのザクセン選帝侯に献呈しました。このドレスデンのミサ曲のグ

BWV191 《グロリア 高き天なる神に》 (1743-46年頃)	BWV232 《口短調ミサ曲》 (原曲1733年 1748-49年頃)
1. 合唱 (5声部 SSATB, 二長調, 100小節 + 76小節) Gloria in excelsis Deo. Et in terra pax hominibus bonae voluntatis. グロリア 高き 天(あめ)なる 神に 地に 平和 主の 民に あれや (ミサ通常文 Gloria 冒頭部)	4. 合唱 (5声部 SSATB, 二長調, 100小節) Gloria in excelsis Deo. (グロリア, 高き天(あめ)なる神に) 5. 合唱 (5声部 SSATB, 二長調, 76小節) Et in terra pax hominibus bonae voluntatis. (地に平和, 主の民に あれや) (BWV191と同歌詞. ミサ通常文 Gloria 冒頭部)
2. 二重唱 (ソプラノ/テノール, ト長調, 74小節) Gloria Patri et Filio et Spiritui sancto. グロリア 父に み子に 聖(きよ)き み霊に (ミサ固有文 Doxologia 前半)	8. 二重唱 (ソプラノ/テノール, ト長調, 94小節) Domine Deus, Rex coelestis, Deus Pater omnipotens, Domine Fili unigenite, Jesu Christe altissime, Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris. (主なる神, 天の王, 全能の父なる神よ, 主なる独り子, いと高きイエス・キリスト, 主なる神の小羊, 父のみ子よ) (ミサ通常文 Gloria 中間の一部)
3. 合唱 (5声部 SSATB, 二長調, 134小節) Sicut erat in principio et nunc et semper et in saecula saeculorum, amen. 初めに ありしごと 今も 後も 後の 世も とわに アーメン (ミサ固有文 Doxologia 後半)	12. 合唱 (5声部 SSATB, 二長調, 128小節) Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris, amen. (父なる神の栄光の うちにいませば, アーメン) (ミサ通常文 Gloria 終結部)

ローリア部分が、後述のように一部の改詞・改編をへて転用されたもののようです。《口短調ミサ曲》の生成過程や、上述の4つの《ミサ・プレヴィス》の演奏機会等についてと同様、この作品 BWV191 についても、いまだに種々の説が錯綜しているので、ここではそれらの詳細ははぶき、音楽的内容についてのみ述べることにします。

初演：1743-46年ごろ、ライプツィヒ。

歌詞：ミサ通常文「グローリア」冒頭部分と「小栄唱」（いずれもラテン語）

編成：独唱S・T，合唱5声部（S・S・A・T・B），トランペット3，ティンパニ，フルート2，オーボエ2，弦合奏，通奏低音。

#### 1. 合唱（5声部合唱）

これは、《口短調ミサ曲》第4曲、第5曲としてそのまま用いられています。福音書ルカ2:14の天使の讃歌を歌う、フルオーケストラを伴った歓喜の大合唱。後半 地に平和は、前半と対比した、静かな4分の4拍子の祈りとなり、トランペット、ティンパニは、最後の20小節の盛り上がりまで、沈黙します。

#### 2. ソプラノ/テノール二重唱

Post Orationem（祈禱後）とされるこの第2曲は、フルート（斉奏）と弦合奏・通奏低音による、ソプラノ/テノール二重唱で、1733年の原曲（したがって後の《口短調ミサ曲》BWV232第8曲 Domine Deus）では「父」と「子」への讃歌であったものが、「聖霊」をくわえた三位一体の小栄唱の前半 グロリヤ 父に みに子に 聖(きよ)きみ霊に へと歌詞を替え、音楽は20小節短縮されています。

#### 3. 合唱（5声部合唱）

また1. のトゥツィの編成にもどって、《口短調》グローリア部分の終曲、第12曲 Cum Sancto Spiritu の大合唱の音楽にもとづき、歌詞を小栄唱後半部分と入れ替え、音楽もかなり手直しして、《口短調》を6小節拡大した形で、どっしりと曲を閉じます。フーガが2回にわたって展開され、アーメン合唱を加えて絶頂に達します。まさに、BWV191は、《口短調ミサ曲》の「グローリア」の「いいとこどり」のカウンタータ、クリスマス第1日にふさわしいアレンジを施した実用音楽と言えましょう。

参考までに、原曲の歌詞と並列して、バッハの工夫をしますのでみることにします（前ページ表）。

## カウンタータ第75番《貧しき者は 食し》

### »Die Elenden sollen essen« BWV 75

[歌詞]（大村恵美子・訳詞）

#### 第1部

##### 1. 合唱

貧しき 者は 食し、かくて 満たさるべし

主を 求むる 者は そを 讃えん

心は とわに 生くべし

(詩編 22:27)

##### 2. レチタティーヴォ（バス）

王者の 驕りも 過ぎゆき 豊かさも むなし

見ゆる すべては 消え去る

世の 快樂(けらく)も うつろ

肉体(からだ)は 朽つる ものなれば

いかに 速やかなる 心 富に 穢(けが)さるるは

#### 3. アリア（テノール）

わが イエス わが すべて

尊き 血は 衣(ころも) 主こそ わが 宝

み霊の 愛の 炎は わが 喜びの 酒

#### 4. レチタティーヴォ（テノール）

主 落とし また 上ぐ 今も のちも

世を 尊ぶ ものは 呪われん

打ち克つ ものは かしこに 幸あり

#### 5. アリア（ソプラノ）

勇みて 苦しみを も 負わん わが身に

ラザロの 痛み 忍ぶ 者を

天使は 迎え入れん

#### 6. レチタティーヴォ（ソプラノ）

主は 智を 授けたもう

信ずる 者は 大いなる 喜びを 得ん

ああ 死に 至る 苦しき ついには み手に 憩わん

#### 7. コラール

神の みわざこそ ことごと 善けれ

にがき 杯(さかずき)に われ たじろぐまじ

やがては 慰め ところに 満ちて

痛みも 消えなん

(Samuel Rodigast „Was Got tut, das ist wohlgetan“ 1674 第5節)

#### 第2部

##### 8. シンフォニア

##### 9. レチタティーヴォ（アルト）

ところに かかる 憂いは わが 魂の 貧しさのみ

新たなる 主の 恵み 信じ

この世ならぬ いのちの 実をば

育(はぐく)む 力 乏(とぼ)し

#### 10. アリア（アルト）

イエス わが 心を 豊かに 富ましむ

み霊を 受くるこそ わが 熱き 望み

そは いのちの 糧(かて)

#### 11. レチタティーヴォ（バス）

イエスに たより おのれを 捨て

神の 愛に 従(したご)う 者

地 滅ぶとも 神と おのれ 見出さん

#### 12. アリア（バス）

わが 心 信じ 愛す

イエスの 愛の 炎 わが 愛の 源(みなもと)

われに 先立ちたもう

その身を 主は 与えたまえば

#### 13. レチタティーヴォ（テノール）

貧しさ 富に まさる

心より すべてを 去り 主を 迎うる とき

神に 導かれん われらも 行かしたまえ

#### 14. コラール

神の みわざこそ ことごと 善けれ

悩みにも 死にも われは 揺るがじ

み父の 愛もて われを いただけば

主に より頼まん

(Samuel Rodigast 同上 第6節)

## [解説]

初演 = 1723年5月30日(三位一体節後第1日曜日), ライプツィヒ.  
福音書 = ルカ 16: 19-31 (金持ちと貧乏人ラザロの譬え)  
歌詞 = 作者不詳. 第1曲, 詩編 22: 27.  
編成 = 独唱 S・A・T・B, 合唱 S・A・T・B, トランペット, オーボエ2, オーボエ・ダモーレ, 弦合奏, 通奏低音.

この曲は, バッハがトーマス・カントルとなって, 就任後最初のカンタータで, 大変な好評を博したという記録があります. 私たちは時々ヨーロッパ各地で, 日本では考えられないような現象に出会います. たとえばこの, ライプツィヒのお目見え演奏が, 35分もかかる大規模な音楽で, その内容が, なんと, 貧しい者は食べられるようになる, などというもの. それをまた, 好奇心に満たされながら集まってきた礼拝参加者が, 気に入ったということです. これなど, キリスト教国ならではの出来事で, たしかに, 金持ちとラザロ(貧乏人)の話は, 中世以来, 民衆の愛してやまないものだったらしく, いま不遇でも, そのうちきっと神にみとめられ, 満足がやってくる, と多くの人びとは希望をとりなおして帰途につく心境だったのでしょう.

それにしても, この作品にかけるバッハの思い入れは強く, バッハ自身の名前を象徴する14という数字にちなんで, このカンタータも, 説教をはさんで前後2部に分けた14曲の構成となっています. そこには当世風のリズムあり, 大規模なオーケストラつきコラールあり, また同一コラールをさまざまな器楽の型にちりばめた編曲あり, シンフォニアあり, と全体の長さを感じさせない工夫がこらされています. 前半は現実の貧しさとの戦い, 後半は神の恵みによる豊かさに転じてゆく道のりに的をしぼって, バッハは堂々たるカンタータを新しい任地に披露したのでした.

### 第1部 1. 合唱

フランス風序曲を思わせるような, 休符と付点リズムにみちた導入部から, 静かに合唱が始まり, かくて満たさるべしで一段落. つぎに主を求むる者は心はとわに生くべしと, 対位的に積み上げられてゆきます. 心はとわにの最初は, 独唱者たちで先導され, ついで合唱がしますが, このフーガは, これから先のバッハの成熟したフーガへの序の口のように, あまり十分に展開されずに終わります. それでもこの冒頭合唱曲は5分かかり, まだまだ先は長いのです.

### 2. レチタティーヴォ(バス)

この世の有限性, 富が心をけがすことを, 弦合奏とともにバスが考え深げにうたう.

### 3. アリア(テノール)

オーボエ助奏をともなった, テノールの落ち着いたイエス讚美. 主こそわが宝. ポロネーズのリズムに乗って, わが誠をイエスに献げる歌.

### 4. レチタティーヴォ(テノール)

簡単なセッコ(通奏低音のみの)レチタティーヴォながら, 神と人との関係を鋭く指し示す. 第3曲から第6曲まで, テノールのアリアレチタティーヴォと, ソプラノのアリアレチタティーヴォが続きます(レチタティーヴォ

の先行ではなく).

### 5. アリア(ソプラノ)

オーボエ・ダモーレで3拍子のメヌエットのリズムを刻みながら, 最後に報われることになるラザロにならって, ソプラノは天使の迎えを待ちつつ, 喜んで苦しみを負ってゆこうと, 健気にうたいます. ダ・カーポ形式.

### 6. レチタティーヴォ(ソプラノ)

短いセッコ・レチタティーヴォで, ソプラノは, 死にいたる苦しみも, ついには主のみ手に憩うのだ, と希望を告げます. つぎのコラールの冒頭動機が, 芽生えています.

### 7. コラール

第1部のしめくくり, ローディガストの有名なコラール神の御業こそ第5節が, 2本のオーボエ, 弦合奏の特徴的なリトルネル口から導入されます. 他のカンタータではトランペットに託することもある, このリトルネル口つきコラールも, ここではオーボエの控えめな色どりで, 貧しさ・苦悩のいやしを表わします.

### 第2部 8. シンフォニア

第2部では, この第8曲と第12曲バス・アリアと2回, トランペットが登場して, 神の救いの確かさを示します.

シンフォニアは, トランペットと弦合奏・通奏低音とで, 第1部終曲コラールの変奏曲(コラール旋律をトランペットが奏する)です. 弦も, それぞれに上行型の, コラール旋律に似かよった主題を, 対位的に積み上げ, 貧しさと苦しみの現実から, 神の国の豊かさに次元が移ったことを感じさせます.

### 9. レチタティーヴォ(アルト)

弦合奏とアルトで, わが身の非力が神の恵みを受けるさまたげとなることを憂います.

ここからは(第9曲から第12曲まで), 第1部と逆の順序で, レチタティーヴォアリアの組み合わせが, アルトとバスによってくり返され, その後に, 決断のテノール・レチタティーヴォ(第13曲)が置かれることとなります.

### 10. アリア(アルト)

イエスわが心を豊かに富ましむと, 上行音型の主題をくり返し, パスピエの3拍子リズムで歌います.

### 11. レチタティーヴォ(バス)

簡素なセッコ・レチタティーヴォで, 神とわれの絆は, 地滅ぶともゆるぎないことを, 確言します.

### 12. アリア(バス)

トランペットの3連音の華やかなパッセージを, 弦合奏も受けつぎ, バスも軽やかにトランペットの主題で歌います. 一気呵成に讚美がほとばしり, たっぷりした前・間・後奏が鳴り響きます.

### 13. レチタティーヴォ(テノール)

貧しさ富にまさるという結びを, セッコ・レチタティーヴォでテノールが歌いおさめます.

### 14. コラール

第1部終結(第7曲)のコラールを, 第6節の歌詞でうたい, 全作品をこのコラールでさまざまに色どってきた, 大規模なカンタータは, 終りを全うします.

貧しさ富にまさる. このメッセージを, それぞれの生活のなかで反芻して, 新しい年, 2009年の目標のおきどころを, 新たにしてみたいかがでしょうか.

## 平坦な日本語の、平坦な音楽表現

ポーランドで、ことばの影響を実感

金澤 亜希子

9月なかばから10日間ほど、ポーランドの南西部に位置するヴロツワフという都市に行ってきました。ここには作曲家リストの協会があり、今回「第4回国際フェレンツ・リスト・ピアノコンペティション」に参加したのです。世界各国から40名のピアニストが出演、世界中のリスト弾きが集結した大会となりました。

海外でさまざまな国の音楽家の演奏を聴くと、日本国内とちがって、ほんとうにいろんな個性や表現に出会うことができます。間違わずに弾くことだけが重要なのではない、という意識も強いように思われます。だから、日本人的感覚ではありえないミスや、変わった解釈が見うけられることもあります。

外国人から見た自分の演奏は、一言であらわせば「平坦」のようです。この旅のあいだ、ホテルで同室になったラトヴィア人の女の子に日本語をすこし教えてあげたのですが、「日本語はアクセントやイントネーションがあまりないのね」と言われました。今まであまり意識していなかったのですが、まさにそれが日本語の特徴なのですね。

音楽は話す言語の影響が大きい、というのは前からわかっていたのですが、日本語を話す自分が奏でるフレーズは、どうしても抑揚がたりないようです。まさにそのことを審査員の先生からも指摘されましたし、ロシア人はロシア語のように、フランス人はフランス語を話すように、彼らの音楽が流れていくのを実際に感じました。

音楽の勉強ばかりでなく、旅行としても楽しんでまいりました。欧州で鉄道に乗るのも好きですし、教会巡りをしたり、現地ならではの料理を堪能したり…。せわしない日本では得られない、ゆったりとした時間を過ごすことができます。旅の様子やその他の写真は、私のウェブサイトにも掲載していますので、ぜひご覧ください。

[http://www.geocities.jp/kanazawa\\_akiko/](http://www.geocities.jp/kanazawa_akiko/)  
(ピアニスト、東京バッハ合唱団練習伴奏者)

コンペティション会場の入り口・横断幕  
縦横無尽に走るレトロな路面電車  
ポーランド料理、餃子のようなピエロギ  
ヴロツワフ市庁舎  
(写真・筆者提供、右上から)



柳元 宏史

連載：全部おすすめ 50 曲選!! <その 17>

## カンタータ第71番《主はわが君》

初演が1708年2月4日(ミュールハウゼン)で、奇しくも今年300年目を迎えたこのカンタータは、バッハの若い時代(作曲当時23歳)のみずみずしさ、爽快さが伝わってきて気が晴れる。もっとも市参事会員の新旧交替式のために作曲されたのだから、そう暗いのも困るのだが、その目的にもまして、それぞれの曲に独自の魅力が備わっていて、バッハのさまざまな可能性と天才ぶりを感じさせる。

みずみずしさ、爽快さ、といえば、先日、はっと思いついて出かけたコンサートも、指揮者によってこんなに音色が生き生きと立つものかと感心し、元気をもらった。

当日券のため、演目(ベートーベン《エグモント序曲》、《ピアノ協奏曲1番》、チャイコフスキー《交響曲8番》)程度の知識で、あまり期待せずにいったのが結果としてよかった。詳細なプログラムのプロフィールを読んでびっくり、指揮者は24歳のフランス系オランダ人。独奏ピアニスト(女性)も私と同じくらい(30台前半)さすがに女性の場合は生まれた年を記載するのは野暮なことのようにはっきりしなかった。ドイツを拠点に活躍しているという、高橋礼恵さんと、オーケストラの音とみごとに溶け合い、カデンツァも立体的で優れていた。

その驚きよりもガーンと私の頭を打ったのは、指揮者のヴィクトーア・エマニュエル・フォン・モンテトン氏の颯爽とした統率力ある指揮ぶりだった。楽団員からも、なんだかやってやるぞという雰囲気伝わってきて、単に名曲を無難に仕上げましたといったものではなかった。

指揮者のモンテトンは、3歳よりピアノをはじめ、神童と呼ばれ、その後も天才と称されるほどのピアニストであったようだが、アシュケナージやバレンボイムのようにピアニストから指揮者へ転向した。協奏曲の後には異例にも、高橋と連弾でアンコールにこたえてみせ、茶目っ気たっぷりであったが、思いっきりのいい曲の解釈や展開を聞いていると、若くても等身大でぶつかるすがすがしさに、背中を押される気がした。

若かりしバッハの作品であるこのカンタータの魅力、日本語で再現している合唱とソリストの競演は聞きごたえがある。われ老いたり と、王に引退を乞う老バルジライの心境をしみじみと歌うテノール佐々木正利氏(第2曲)、老人をいたわるようにソプラノ名古屋木実さんのコラルが和す(同上)、天地の秩序ある統治をゆったりと解き明かすバス渡邊明氏の歌声には、あらためて襟を立てて聴きたくなる荘厳さがある(第4曲)。どんな危機にも神はみ力もて救いたもう、とアルト佐々木まり子さんは力強い(第5曲)。いずれも、ソリスト方の黄金時代を画する貴重な録音である。合唱が縦糸となって、これらの名曲をつなぐ。

(やなぎもと・ひろし、団員：バス、  
東京神学大学大学院在学中)

CD バッハ・カンタータ50曲選[第9巻]に収録・S名古屋木実、A佐々木まり子、T佐々木正利、B渡邊明・大村恵美子指揮・東京バッハ合唱団/東京カンタータ室内管弦楽団、1987年録音(第62回定期演奏会、石橋メモリアルホール) 楽譜：「50曲選」22